

小別沢新聞

1

January 2022

#010

TAKE FREE

発行：札幌市農政部
 (TEL 211-2406)
 編集：NPOあおいとり
 (TEL 664-5148)
 デザイン：3KG
 (TEL 300-3333)
 郵送による定期購読を希望される方は、札幌市農政部までご連絡ください。

小別茶話会を終えて

第3回

2021年11月9日開催

新型コロナウイルス感染症で開催が延期されていた茶話会。今年度の1回目(11月9日(火)午後4時から始まり、参加者は9名(町内会員(特別会員含む)6名、その他3名)でした。

前回の茶話会から約1年ぶりということもあり、最初に、札幌市農政部の石堂係長から、「里山活性化推進事業」について、事業の全体像及び今後市が予定している森林整備についての説明がありました。

その後は、小別沢の将来を考えていくための話題提供として、JFEエン지니어リング(株)北海道支店・顧問の三部英二さん(小別沢新聞#009に登場)を講師にお招きし「里山におけるもう一つの農業」と題するお話をいただきました。大規模・担い手集約型農業の難しさと生活自給率の低下に伴う都市の課題がある中、小別沢は農業の多様性(人材、栽培、経営

etc...)を増やし、発信していくことによって、人や歴史・風景も活かすことができる新たな地域になり得るのではないかと、という可能性の観点を示していただきました。

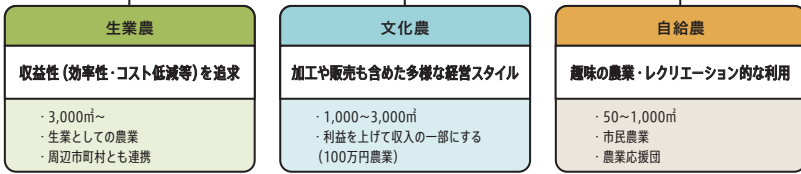
では、「都市農業におけるもう一つ」とはどういうものなのか。それを考える前に、一度原点に立ち返り、農業の定義を考えることが大切だと三部さんは言います。「業」の本質を知るといことは将来性を左右します。例えば『映画業』とは「映画を撮ること」が業なのか、それとも「エンターテイメントで観客を楽しませること」が業なのか。捉え方次第で可能性に違いや広がりが出てきます。「農業」はというと「その生産物を通して子や孫の世代の遺伝子を正しく守っていくこと」「天地人の合作によって人間の生命の糧を生み出す聖業」が本質であり、経済だけでは計りきれない

喜びや感動を伴う業であると捉えるべきなのでは、とのことでした。

このような農業の位置づけを踏まえたうえで、札幌の目指すべき農業についての話がありました。(新しい都市型農業のイメージ)参照)

(新しい都市型農業のイメージ)

遊休農地の解消 安全・安心な食料確保



札幌市は、都市という性質上、相続によって放置された耕作放棄農地がすでに300haに達しています。これらの農地を有効に活用し、次世代に健全な姿で引き渡すことは重要な課題となっています。その対応策としては、貸し借りの枠組みだけでは充分ではありません。従来規模の大きな生業の場としての農地(生業農)と、趣味的とも言っているような利用に供する小規模農地(自給農)。これらに加え、その中間的な規模の農地を担う、いわゆる文化的側面を重視した農業者層(文化農)を新たに位置付け、総合的に札幌の農業を支えていく、新しい都市農業という姿が提案されました。

三部さんのお話の後、参加者で活発な意見交換がなされ、「この話を次の世代である農業を継がない子供たちとも共有できる機会を作りたい」「今は農業を継がないと言っているけれども、いつか継ぎたいとなることもある。その時に、ちゃんと農地として残しておいてあげたい」などといった意見が出されました。



第4回 2021年12月7日開催

今年度第2回の茶話会は、12月7日(火)午後4時から前回同様小別沢会館にて行われました。参加者は12名(町内会員(特別会員含む)10名、その他2名)でした。主な話題は、今年度から(実際の整備は来年度以降)小別沢で進めていく森林整備を担う林業者の紹介でした。みなさんの関心が高く、過去最も多くの方々に参加していただく会となりました。

最初に、札幌市農政部の石堂係長から、森林整備の事業者が決定したことについて説明がありました。次に、事業者として選定された、outwoods 足立成亮さんの自己紹介に移りました。



outwoods 足立成亮さん

足立さんは約10年前から林業に関わり始め、現在はフリーランスの「木こり」として全道各地で活躍しているそうです。まずは足立さんがどんな想いや価値観を持って林業に取り組んでいるのか、といった話を、実際の写真とともに話していただきました。

足立さんが取り組んでいる林業は小規模林業といい、現在の林業の主流となっている大規模な施業方法とは異なる方法です。農業に例えると、昔の有機農業のような位置付けであると感じていて、最近ではそのような施業を環境保全型林業とも呼ぶようになったそうです。林業に取り組んでいく中で、理念として

「皆伐・再造林しない」を掲げ、携わる現場ごとの森林環境に即した林業、そしてその地域の生活環境に即した規模の林業を行うように心がけているとのこと。少し具体的に言うなら、長期的な山の利用が可能となるように、山と人の生活を繋げるのにふさわしい森林作業道を作ることや、山が本来持っている資源量や自然力をより増やす、その手助けをするような林業を大切にしているそうです。こうした理念が小別沢でも展開されていくことになりました。

また、街に住む人々にも森や山のことを考えてもらえるように、多面的なきっかけづくりをしたいという想いから、「森を街に持つてくる」をテーマに写真や工作物の展示、トークイベントなどの取り組みなども積極的に行っているのが、足立さんならではの特徴といえそうです。

小別沢の森での具体的な施業計画については、2月頃に行う現地調査の結果を踏まえて計画する予定であり、その後改めてみなさんへの説明の場を設けたいとのことでした。

その後は質疑応答の時間となり、地域住民の方や初参加の方から、積極的に質問やご意見をいただきました。「森林整備の具体的な施業内容を知りたい」、「地域として森林整備に関わる

方法はどんなものが考えられるか」、「森林整備に伴って出てくる木を使って、炭焼きイベントやホダ木の椎茸栽培をやってみたい」などといった意見が出されました。今後も、地域の声が共有・集約されたり、林業者など色々な人とながる場として、茶話会が機能していくことが期待されます。また札幌市に対して、茶話会に参加したいけれど、参加できなかった方に向けた簡

単な報告資料を作成してほしいといった要望をいただきました。ご意見を参考に、今回の小別沢新聞から「茶話会報告書」を別紙で作成しております。さらに詳しく知りたい方は、ぜひそちらもご覧ください。

里山活性化推進事業のこと

や、森林整備のことなど、疑問質問等はお気軽に札幌市農政部にお問合せください。

ヤマ仕事中の足立成亮さん
写真提供: outwoods(山内麻由美さん)





むかしと いまの 小別沢

#4

小別沢の男達は、冬になると各地に出稼ぎに。山で木を伐り・枝を落とし・長さを整えて・里へ下ろし

てくる仕事をしていました。その時の材は、梁や柱や土台として今でも札幌の建物に使われています。



鎌田愛 かまだ・あい
札幌に生まれ育ち、現在は養護教諭として小学校に勤め、みんなが親しめるイラストを用いた保健だよりを作成するなど、保健室で日々奮闘中。夢は、いつか家族のコミックエッセイを出版すること。

里山活性化推進事業と 森林整備のあらまし



森林と農地が連なり、人と自然が共生している「里山」は、森林と農地が一体となり、生物多様性の保全や良好な景観の形成等の多面的機能を有しています。

しかし近年、農業従事者の高齢化や後継者不足等により、農地および森林の管理不足や、地域コミュニティの希薄化が進行し、里山の魅力の向上、活性化に向けた取り組みが課題となっています。

一方、林業分野においては、令和元年度の森林経営管理法の施行や森林環境譲与税の創設など、森林整備およびその促進に関する社会的な動きが強まっており、農業以外の分野との連携による一体的な施策など、地域の特色に応じた振興方策が重要と考えられます。

以上のような状況を踏まえ、西区小別沢をモデル地区として位置づけ、森林の保全を含めた、地域住民や農林事業者等を主体とする里山活性化の仕組みづくりを令和元年度より進めています。

なお、森林整備に関しては右記の整備範囲について、林業者が市の公募により決定致しました。

市からのお知らせ

新型コロナウイルスの影響により延期していた小別茶話会を開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

第5回 小別茶話会 開催のお知らせ

日時: 1月18日(火) 16:00-17:30
場所: 小別沢会館(札幌市西区小別沢49)
内容: 森林整備について他
※冬季は駐車場がありません。
ご不便をおかけしますが、ご理解願います。

*町内会以外の方で初めて参加を希望される方は準備の都合上、事前に左記担当者までご連絡ください。

札幌市農政課 松里・石堂
☎211-2406

里山事業の スケジュール

